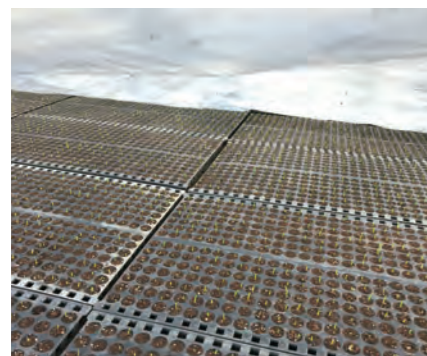


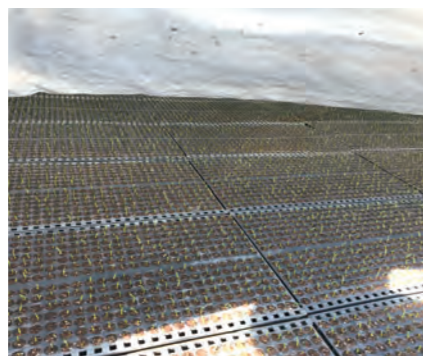
保温力強化マルチの効果確認試験

JAえんゆう

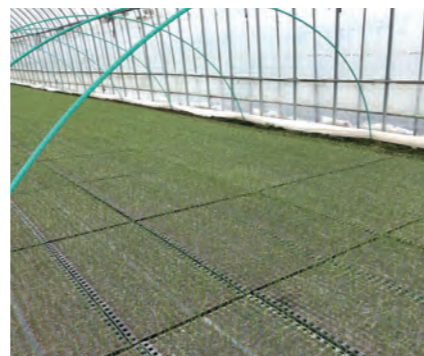
小崎 光



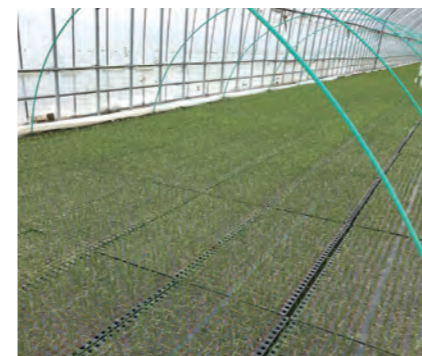
①【3月7日】試験区(発芽3月6日)



②【3月7日】慣行区(発芽3月4日)



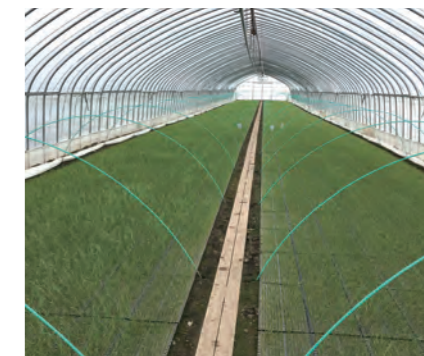
③【3月27日】試験区



④【3月27日】慣行区



⑤【3月27日】左慣行、右試験



⑥※参考【3月27日】左OH、右ノーポリ

試験目的

サンパワーホットマルチの効果確認試験

試験作物 及び品種

玉ねぎ

試験資材 及び数量(規格)

サンパワーホットマルチ(0.05mm×460cm×100m) 1本

慣行資材

オニオンホット

栽培方法

播 種 日

2月18日

資材使用期間

2月～4月

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

初期展張時の作業は慣行品はべたつきや静電気があり開きににくく、試験品は開きやすかった。

一方でトンネルの開閉作業については、慣行品は水滴が流滴しているのに対し、試験品は水滴が表面に付着しており、べたつき開閉しやすかった。

毎日の作業となるトンネルの開閉作業の省力化ができる慣行品が優れている結果となった。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

播種日:2月18日

出芽日:慣行区3月4日、試験区3月6日

【3月7日】慣行区の方が出芽が2日早く、苗の揃いも均等であった。

【3月27日】慣行区の方が一葉の出始めが1日早かった。試験区は農ポリよりは優れているが、慣行区と比較すると保温性が劣る。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】: 初期展張時の開く作業

【問題点】: トンネルの開閉作業・保温効果・流滴性

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

慣行品、試験品共に新品の為、差は感じられなかった。

(5)保温効果について

慣行区の方が気温、地温共に優れた結果であった。

モニター感想

試験品は農ポリとオニオンホットの中間の保温力といった印象である。

試験品は水滴が表面に付着しているため、開閉作業が重い。毎日の作業のため重さは重要である。
農POベースでより良い商品があれば使ってみたい。

JA担当者の感想(大嶋係長)

オニオンホットの人気が高まってきている中で、安価で保温力がある試験品とのことであったが、総合的に劣ってしまう結果となった。昨今、生産者人口の減少や高齢化により効率的な営農が求められる中で作業性の向上は重要であるため、農POの特性を生かした製品を今後開発していくべきだと思われる。

今後の使用について

改良して欲しい。
保温性と作業性から考えて農POベースのトンネル資材が良いと考えられる。